



発行所
高崎高校同窓会
高崎市東町723
TEL 0273-24-0074

編集兼発行人
戸塚 興嗣

印刷所
熊谷 秀夫
熊谷 秀夫
TEL 0273-22-2751

同窓会報の発刊にあたって

会長 小山長四郎

今回、同窓会報が発行されることになりました。この紙不足の時代に、そして印刷費の高いインフレの世の中で、という配慮がないわけではありませんが、とかく断絶しがちな母校と同窓会員諸賢との心をつなぐ何かがほしいとの念願からの試みであります。御理解をいただきますようお願いします。

というわけは、母校の施設の整備や行事の際に、同窓会の皆さんから物心両面にわたって御懇情をいただいておりますが、学校側からは梨のつぼみ、ただ差上げるのは「受領書」だけとあって、衷心から心苦しく、気がかりのことであつたらしいのです。それで、校内幹事の諸先生が発議されたのです。何か両者をつなぐ懸橋がほしいと。母校も、いよいよ三年計画で建替えといひますか、新築が決まりました。

鉄筋コンクリート三階建の教棟二つ、観音山の翠りを背景に乗附原に堂々の景観を誇ることにしましょう。しかし、ヒドイのは校庭で、長雨や豪雨ですと校庭は水だまりが随所にでき、野球部員は繰り出動で水の掻出しに懸命だそうです。校庭を整備したいなあ——これが或る時の会合での嘆息でした。

いづれにせよ、校内事情や企画など御報告し、御理解をいただくと同時に同窓会員の諸兄の御意見や消息をお伝えしたい。そして親睦と交歓の場といいたしたい。要するに、昔から同じ釜の飯を食ひ、同じ屋根の下で勉学にいらした「共通のなつかしさ」を発表し交歓したいというのが、私の察するところ、ねらいらしいです。「共通のなつかしさ」といふたら、同

級会でしょう。同窓会を一本の太木とするならば、同級会は大木を構成する年輪です。年々の曲折変化を表すのは年輪です。恵まれた年、災厄の年を刻

全人的教育の重視を

学校長 中野敏宗

本年四月から本校にお世話になることになりました。前任者安居先生に比べ、浅学にして微力ではありますが、生来の非才に鞭打って本校の伝統の維持向上に努めたい所存であります。よろしく各位のご支援をお願いします。

着任以来すでに半年余を経まして、漸くその校風にもなじみ、生徒の気質についても理解を増してきました。

現代の高校生のもつ考え方や生活態度には多くの批判があり、本校の生徒といえどもその弊を免れ得ないと思ひます。しかしまたかような通念に反して感心させられている所もあります。

その一つとして、一般に上級進学校校におけるクラブ活動は低調な傾向にあります。本校では予想以上に活潑であることです。これも前校長が知能・情操・体力の調和的発達を理想とし、ギリシヤ的精神を指標として薫陶にあたられた賜と思ひます。これを今後踏襲し、円満な人間を形成するため全人的教育を重視したいと考えます。

みこんでいるのが年輪です。同級会の記事・消息など同窓会報に是非のせたいものです。そして、会報を会員と学校の五彩の虹の懸橋としたいものです。(18回卒・美峰酒類K・K社長)

次に生徒の気風も時代とともに変わっていますが母校の伝統を尊重する精神は失われていません。「断絶の時代」と呼ばれますが、先輩の業績を畏敬し、その意見にも案外素直に従う心も持っています。これも日頃の先輩諸兄の物心両面にわたる懇篤な援助、指導に由来するものと考えられ、深く感謝しています。

現在学校の当面する課題として校舎の全面改築がありますが、遅くとも明年には着工され、三年計画で竣工の予定です。またこれが完成の翌年、昭和五十二年は創立八十周年に当たりますので、この記念式と校舎落成式とを併せ挙行したいと考えています。八十周年記念事業として何をお願いすべきか校内でも検討中ですが、学校史編纂やグラウンドの整備等があげられています。いずれ協議を蔵き決定されることと思ひますが、その節は同窓生各位の格段のご援助をお願いいたします。

昭和48年度同窓会経常費予算案

(昭和48年1月～12月)

収入の部

支出の部

摘要	金額	摘要	金額
前年度からの繰越金	258,276	会議費	90,000
入会金	365,000	祝賀費	100,000
内 全日制 (360)		読別費	100,000
内 通信制 (5)		慶弔費	30,000
維持会費	365,000	通信・印刷費	55,000
銀行利子	3,302	旅費	40,000
		事務費	65,000
		見舞費	10,000
		特別通信印刷費	150,000
		子備費	351,578
計	991,578	計	991,578

昭和47年度同窓会経常会計報告

(昭和47年1月～12月)

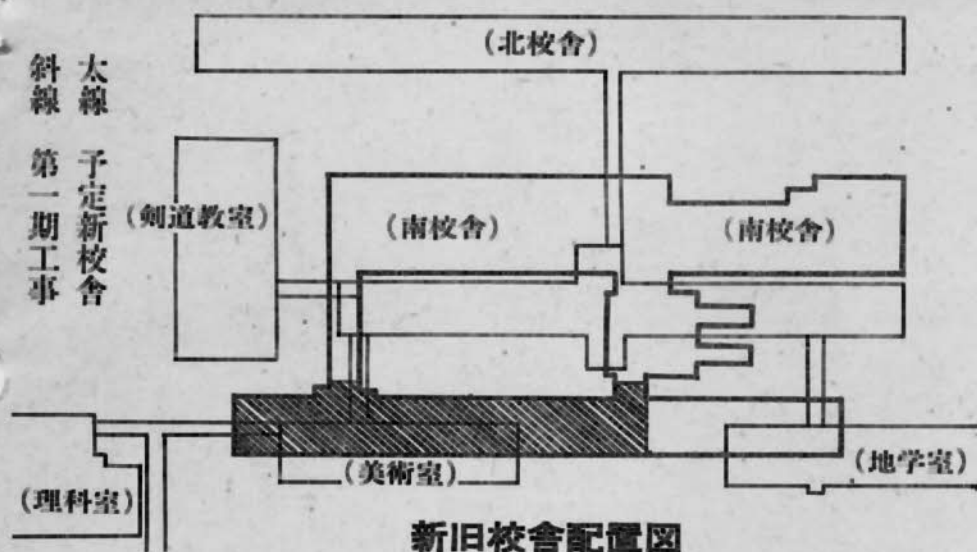
収入の部

支出の部

摘要	金額	摘要	金額
前年度からの繰越金	107,533	会議費	92,464
入会金	371,000	祝賀費	82,870
内 全日制 (364)		読別費	52,000
内 通信制 (7)		香典費	28,000
維持会費	252,000	通信・印刷・広告費	55,045
利息	3,302	旅費	28,690
		事務費	60,540
		特別通信・印刷費	75,950
		次年度へ繰越金	258,276
計	733,835	計	733,835

庶務報告

47. 1. 29	同窓会総会	宇喜代 出席 75名
2. 19	安居校長先生祝賀会(教育功労者表彰)	高崎商工会議所ホール
5. 19	京浜同窓会新入生歓迎会	都道府県会館
7. 19	小山会長を祝う会(叙勲・出版記念)	高崎商工会議所ホール
10. 27	京浜同窓会総会	都道府県会館
12. 22	常任理事会	すいらん会館
48. 1. 27	同窓会総会	高崎商工会議所大ホール 出席 157名
5. 16	京浜同窓会新入生歓迎会	都道府県会館



新旧校舎配置図

校舎改築について

昭和十三年に上和田より移転しました私たちの校舎もいよいよ改築されることになりました。当初には今年度着工の運びでしたが、ご承知のような物価事情で来年度に持ちこされるかも知れませんが三年計画で実施される予定です。やがて迎える創立八十周年の昭和五十二年にはその偉容を乗附の野に誇ることでしょう。

(志村)

編集メモ

◆いつになっても郷愁をそそるのは、遠く過ぎ去ったあの学舎での毎日のこと、追憶の思いは常に新たな情感を感じさせてくれます。そんな同窓生の心と母校との絆を一層強く結んでほしいという願いから、会報が生まれました。今後とも、声援と協力を期待しております。

◆今年度、新しく発刊した「会員名簿」まだ残部がありますので、希望者は学校の名簿係まで申し込んで下さい。

(郵送代別 一冊 千円)

◆翠巒会館内に「翠巒文庫」というのがあります。これは同窓生による著作を一堂に集めて、末永く保存しようというものです。現在、約百五十冊ほどの作品が展示されておりますが、まだ皆さんの著作がかなりある筈なので、ご寄贈を願える方は学校までお届け下さい。

◆そろそろ今年度の同窓会総会の日が近づいてきました。なつかしい同窓生との対面、懇親は何にもかえがたいものがある筈です。当日は万障繰り合わせて、多数の方の出席により、一層盛会にしたいものです。

(岡村)

本校のあゆみ (概要)

(1) 草創のころ

鳥川学校

明治十年(一八七七年)

九月、「群馬県学則」が改正され群馬県に十七番中学(前橋町)、十八番中学(高崎宿)十九番中学(七日市町)四十二番中学(太田町)の設置が定められた。

しかし実際には、前橋・高崎にそれぞれ利根川学校・鳥川学校の二中学が開設されただけであった(十二月二十八日、文部省認可)。ともに修業年限三年(正規は五年)学科、教則などの点で変則中学であった。

鳥川学校は下横町興禪寺内に、宿舎は、宮元町竜興寺内におかれた。生徒十八名、教員は副校長心得(事実上の校長)原口泰ほか二名で、英学にとくにすぐれていた。授業料は月額二十五銭。しかしこれではとうてい校費をまかなうことができず、開校はしたものの、はじめから財政問題でくるしめられた。

明治十二年(一八七九年)五月、利根川・鳥川両学校廃止。

わずかに二年半の運命であった。

生徒は一旦退学し、十二月に前橋町に新設された群馬県中学校に一部の者が引きつがれた。

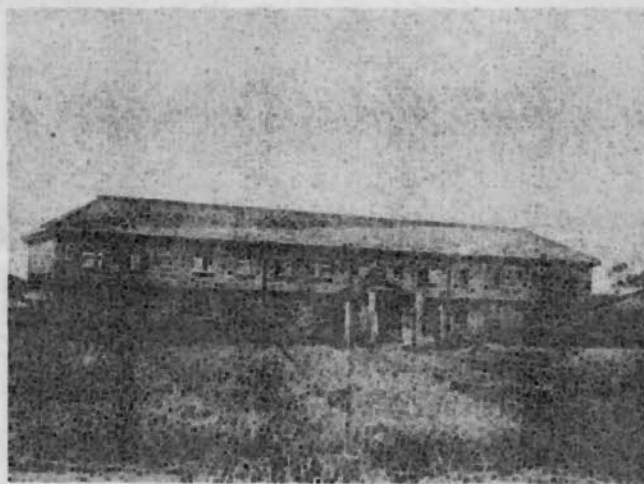
群馬県中学校はその後、若干の変遷のち群馬県尋常中学校となり、げんざいの前橋高校に伝統を引きついでいる。

高崎(明治十一年十二月、高崎宿から高崎駅と改称。西群馬郡に属す)にはこれから明治三十年までの十八年間、中学校の設置をみなかった。

群馬県尋常中学校群馬分校

明治三十年(一八九七年)

四月一日、群馬県尋常中学校群馬分校が(西)群馬郡高崎町(明治二十二年四月一日、町制施行)に創設された。これが本校の前身であり、この年をもって、本校の創立年としている。



この年から、太田・富岡・沼田・藤岡・安中にも分校が設置され、一躍、本県の中学校教育が充実されることになった。しかし、いずれも施設・設備は不十分極まるものであった。

群馬分校の場合、敷地・校舎・設備は高崎町が寄附することを条件に創立されることになったが、

まにあわず、三月からの執務、入試は郡役所の一隅で行われた。生徒定員は二学級八十名であったが応募者が満たず、面接だけで七十六名が入学した。

分校主任には東京府尋常師範学校教諭の峰岸米造(勢多郡下川瀬村出身)が招かれた。二十八才の若さであった。教員は六名。

四月十一日、入学式。赤坂町長松寺の本堂を仮校舎とし、幕でしきって授業が開始された。

明治三十一年(一八九八年)

三月三十一日、上和田町に二階建校舎、寄宿舎が完成される。この地に、昭和十三年十二月二十八日

乗附町に移転するまでの四十年間本校が所在した。

当時の授業料は月額一円、寄宿舎食費月額三円、諸雑費をふくめ一月の納金は五円十銭であった。

群馬県立高崎中学校

明治三十三年(一九〇〇年)

四月一日、本校より独立して、「群馬県立高崎中学校」と改称され、初代校長広田文則着任する。

この日、高崎町に市制施行され高崎市となり、初代市長矢島八郎は七月十八日に就任した。

群馬県立高崎中学校

明治三十四年(一九〇一年)

六月廿一日、従来の中学校規則が廃止され、名称を「群馬県立高崎中学校」と改める。この称は昭和二十三年の学制改革までの四十七年間使用された。

明治三十五年(一九〇二年)

三月二十六日、第一回卒業証書授与式。卒業生三十四名。

この年四月現在、生徒数三七二名。

職員数は二十二名、学級数一〇と

(竹林)

高高精神とは

原 一雄

一口によく高高精神という。それは我々のむかしは、高中精神とも言った何何精神とは、時に口にする言葉ではあるが、具体的には何と何であるか、条文の様に簡単に並べられるものではない。然し、そういうものでありながら、開校以来八十年の今日まで、この校門をくぐっては世に出て行くもののおおのに、一つの心の背骨となつて一筋に流れているものがある。

それは、小づるいことをきらい、卑怯卑劣をきらい、目前の利害を越えて純なもの、正しきもの、理想に近づこうとする志気、勇気のようなものではないかと、私は思っている。

処世の上には、知識はもとより大切である。大学入試はもとより、社会人、職業人となつても、科学や経済の発達の上に、知識は重要な要素であり、学ぶべき時に、その基礎基礎をつかり身につけておかなければならぬことは勿論である。

だが実人生に立つてみると、知識の大切さはもとよりだが、更に日に、時時刻々に、勇気とか、決断力とか、誠実さとか、苦しさに堪える粘りとか、人間の心の基盤、覚悟、信念となる精神の背骨が、どれほどに重要なものであるかは、すぐにわかることである。

知識の修得だけであるならば、なにも高高だけに限ったものではない。然し高高に学んだものは、そういう精神の魂の洗礼の様なものを、知らず知らずにかけて来たのではないか。私などは今日までの生の上に、そういうことを感じながら、ある感謝の念を持っている。

科学や経済は、急速に実に目まぐるしく変化して行く。だが、千年や二千年では如何にも変えられない人間の肉体というものの、そういう人間の幸福を如何に追求するかということになれば、やはり人に迷惑をかけない、人を苦しめない、美を尊重し、正しきものを尊重する共通のルール、根本の倫理感が必要であろう。

我々は釈迦やキリストや親鸞の如く、煩惱具足の凡夫として、一生を闘つてゆかなければならない。高高に翠巒会館が出来て、宿泊を共にしながら教室よりも更に、先生と生徒の心のふれあい、人生の討論をくりかえす機会が出来たことも、そういうことに根本の意義であると思うのである。

私達に十代の昔はもはや帰らないが心も知識も、最も身につくのはその十代であったと、今私は思いかえしているのである。(29回卒・群馬米穀社長)

母校だより

今回は「母校だより」として、最近の大学進学状況についてお知らせします。義務教育化した高校への進学が、一層、大学進学への増加に拍車をかけているのが一般的傾向ですが、高々生はその故か、志望校選択がいわゆる一流大学に殺到する傾向が益々、強まっているようです。従つて、生徒は自分の実力以上の大学を狙う傾向があり、それだけに浪人する生徒も多くなっております。また、生徒の中には、高校在学中は三年間の学校生活を十分エンジョイし、大学入学は一浪若しくは二浪を経てからという考え方が非常に支配的であることは否めません。浪人することが、一概に良くないとは言いきれない面もあるので、学校としても、父

兄としても頭の痛いところです。次に志望学部については、法学部・経済学部・理工学部などへの希望者が依然として多数を占めますが、理科系ではこの一兩年、医学部受験者の増加が目立っております。これは本人の適性というより、時代の風潮に便乗した感がないでもありません。このことは建築科志望者についても言えることです。

合格者数については、四三年以降、統計の上から、一年おきにその数が増減するという面白い現象が見られます。従つて、今年度よりは来年度に期待が持てるということになる訳です。しかし、この数年、名門校の名に比して国立大の合格者が少ないのが残念です。最後に、ここ三年間の進学状況と主要大学合格者数を一覽表によって示しておきます。(岡村)

種別	合計	46年	47年	48年
A. 国立一期		93	93	75
B. 国立二期		68	84	63
C. 公立		15	17	20
D. 私立		390	431	373
A+B+C+D		566	625	531
短大・各種		5	2	5
総計		571	627	536
卒業生数		392	374	368
現役進学者数		151	174	134
合格者/進学希望者		39.0%	46.5%	37.0%

	46年	47年	48年		46年	47年	48年
北大	3	6	3	青学	11	14	19
東北大	14	18	8	学習大	6	8	13
千葉大	17	13	12	慶応大	25	30	36
東大	10	7	4	芝浦工大	10	17	14
東大	14	15	11	上智大	7	14	9
一橋大	7	4	5	中央大	41	31	27
東工大		4	3	東海大	13	9	4
芸術大	3	1	1	東京電機	9	3	3
新潟大	17	15	17	・理大	26	29	28
金沢大	1	2	2	・医大		1	4
京都大	3	4	5	東洋大	7	5	10
群馬大	40	47	34	日本大	20	30	20
埼玉大	4	10	9	法政大	23	27	22
東大	3	1	3	武蔵工大	6	6	3
山梨大	3	6	2	明治大	30	43	53
信州大	3	2	3	立教大	29	16	13
高経大	10	7	9	立命館大	9	3	5
横市	1	5	4	早稲田大	48	83	53